






被害想定マップ








登米市立津山中学校

目次

P１　津山町全域地図
P２　下在被害予想マップ
P４　平形・元町被害予想マップ
P６　本町１丁目・本町２丁目・本町３丁目被害予想マップ
P８　本町４丁目・宮町・小川町被害予想マップ
P10　黄牛被害予想マップ
P12　入沢被害予想マップ
P14　横山１区被害予想マップ
P16　横山２区・横山３区被害予想マップ
P18　横山４区・横山５区被害予想マップ
P20　横山６区・横山７区・横山８区被害予想マップ
P22　横山９区・横山１０区・横山１１区被害予想マップ
P24　石貝Ａ被害予想マップ
P25　石貝Ｂ被害予想マップ

今年度の防災学習について

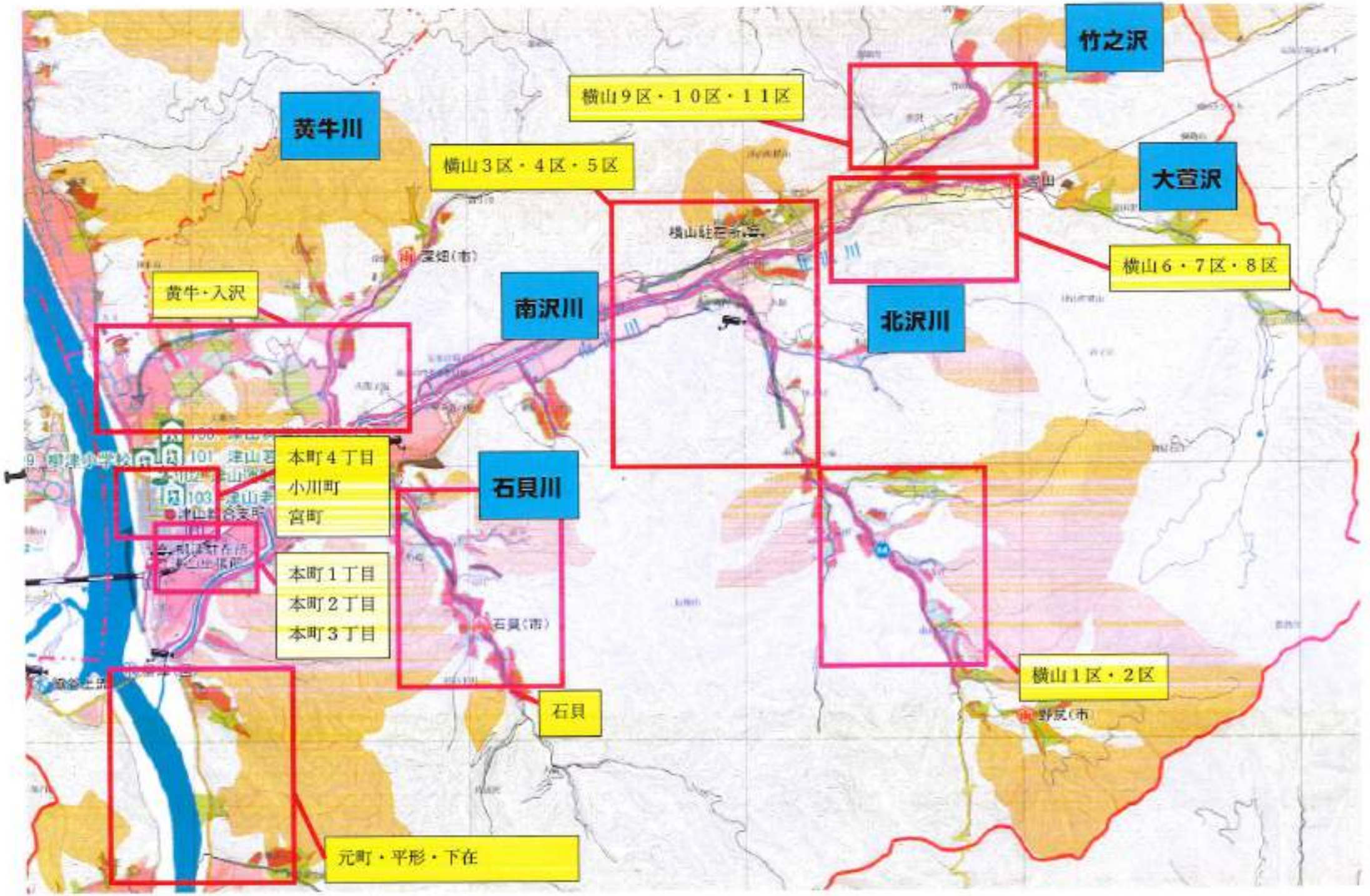
津山町には，北沢川・南沢川・黄牛川・石貝川など，多くの川が流れ，一級河川の北上川と合流します。大雨が降ると，これらの川は，増水し，過去に何度も津山町に大きな被害を与えてきました。今後も深刻化する地球温暖化は，雨の降り方に影響を与え，１時間に５０ｍｍ以上の「非常に激しい雨」の回数が増えると予想されています。

自然災害を風化させないように昨年度は，令和元年台風１９号の被害をフィールドワークで調査し，被害状況を被害マップにまとめました。

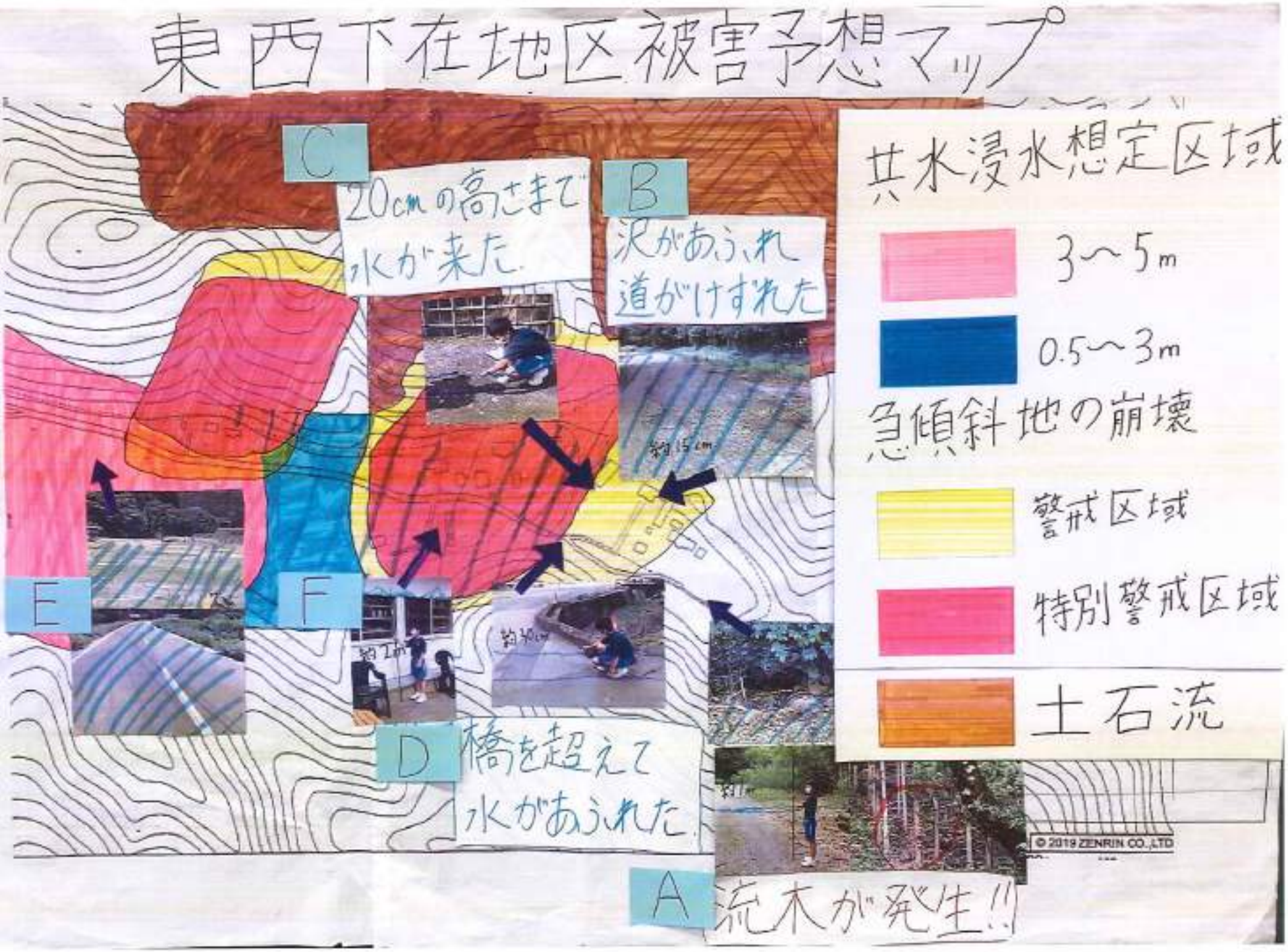
今年度は，登米市が作成した洪水ハザードマップを基に，「想定される最大規模の雨」が津山町に降った場合に予想される被害について考えました。１０００年に１度の確率で１日に７２０.８ｍｍの雨が降ることが想定されています。このような雨が降った時に備え，フィールドワークでは，自分が住んでいる地区の予想される被害について縦割り班で調査しました。右のページの赤枠で囲まれているところは，生徒たちが調査した場所です。

この冊子には，各地区の被害予想マップ，区長さんや地域の方々から教えていただいたこと，防災学習を通して学んだことがまとめられています。

今日の防災学習発表会では，自然と共存しながら，自分や他者の命を守ることの大切さを生徒たちと考える場にしたいと思います。


竹之沢
横山９区・１０区・１１区
黄牛川
横山３区・４区・５区
大岩沢
横山６・７区・８区
黄牛・入沢
南沢川
北沢川
本町４丁目
小川町
宮町
石貝川
本町１丁目
本町２丁目
本町３丁目
横山１区・２区
石貝
元町・平形・下在

東西下在地区被害予想マップ



地区名【　下在　】

危険箇所や災害時の避難方法

- 下在地区は山と沢や川に囲まれているため危険箇所が多い。
- 避難場所が遠いため、災害時すぐに行動するのは危険。
- 沢の上流では切った木をそのままにしているので、たくさんの雨が降ると流木が発生する。
- 災害時は焦らず行動することと、家で待機することも必要だと学んだ。

防災学習を通して学んだこと

① 流木などの被害があるため、切った木をそのまま放置しないようにする。

② 木を切りすぎると、土砂災害や流木、洪水の原因になったりするのでむやみに切ってはいけない
→ 環境の保護

③ 災害時は焦らず落ちついて行動することが大切

④ 避難が難しい場合は家で待機することも必要

元町・平形地区　被害予想マップ

提防
100年に1度の雨にも負けないと言われている

北上川は
岩手県から
水が流れてくる

北上川

畑見えなく
なる



水がたまり
やすい土地





山　傾斜が急
伐採されて
保水効果(低)





ポンプ
川
水門
減災対策盛土
寺

© 2019 ZENRIN CO.,LTD

洪水
0 ~ 3.0m
5.0m ~ 10.0m
3.0m ~ 5.0m

土石流
特別警戒
警戒

急傾斜地の崩壊
特別警戒
警戒

土石流危険渓

地区名【　元町　・平形　】

危険箇所や災害時の避難方法

- 川と山を挟んだ平形と元町は地形がくぼんでいるため、水がたまりやすい土地である。
- 若者体育館に避難する。
- 岩手県で雨が降ったときに、北上川の水位が上昇してしまうことがあるので注意をしておく必要がある。

防災学習を通して学んだこと

- 北上川と南沢川の境目にある水門は大雨が降ったときに北上川から流れてくる水を止めるために使われていること。
- もしもこの水門が無かったら、水が急激に増え、逃げ遅れる可能性が高まってしまうこと。
- 北上川の土手には減災対策看板があり、水害を減らすために過去の事例をもとに早めの対策が必要であること。

本町1・2・3丁目 被害予想マップ



地区名【　本町 1・2・3 丁目　】

危険箇所や災害時の避難方法

〈危険箇所〉

・北上川は15mの土手があるため、越水することはないが、河原に水は貯まる
・田んぼ地帯は、浸水深が5~10mなので危険
・子ども園近くのトンネルの高さは5mで浸水深の方が高い。

〈避難方法〉

・岩手県など上流で大雨 → 水かさが増し支流の排出機能停止による逆流の氾濫の危険性がある。
・津山で大雨 → 土砂崩れの危険性がある
・避難経路 … 支流から離れて避難場所へ
・事前に防災用品を確認しておきましょう。
・川の様子を見に行ってはいけません。

防災学習を通して学んだこと

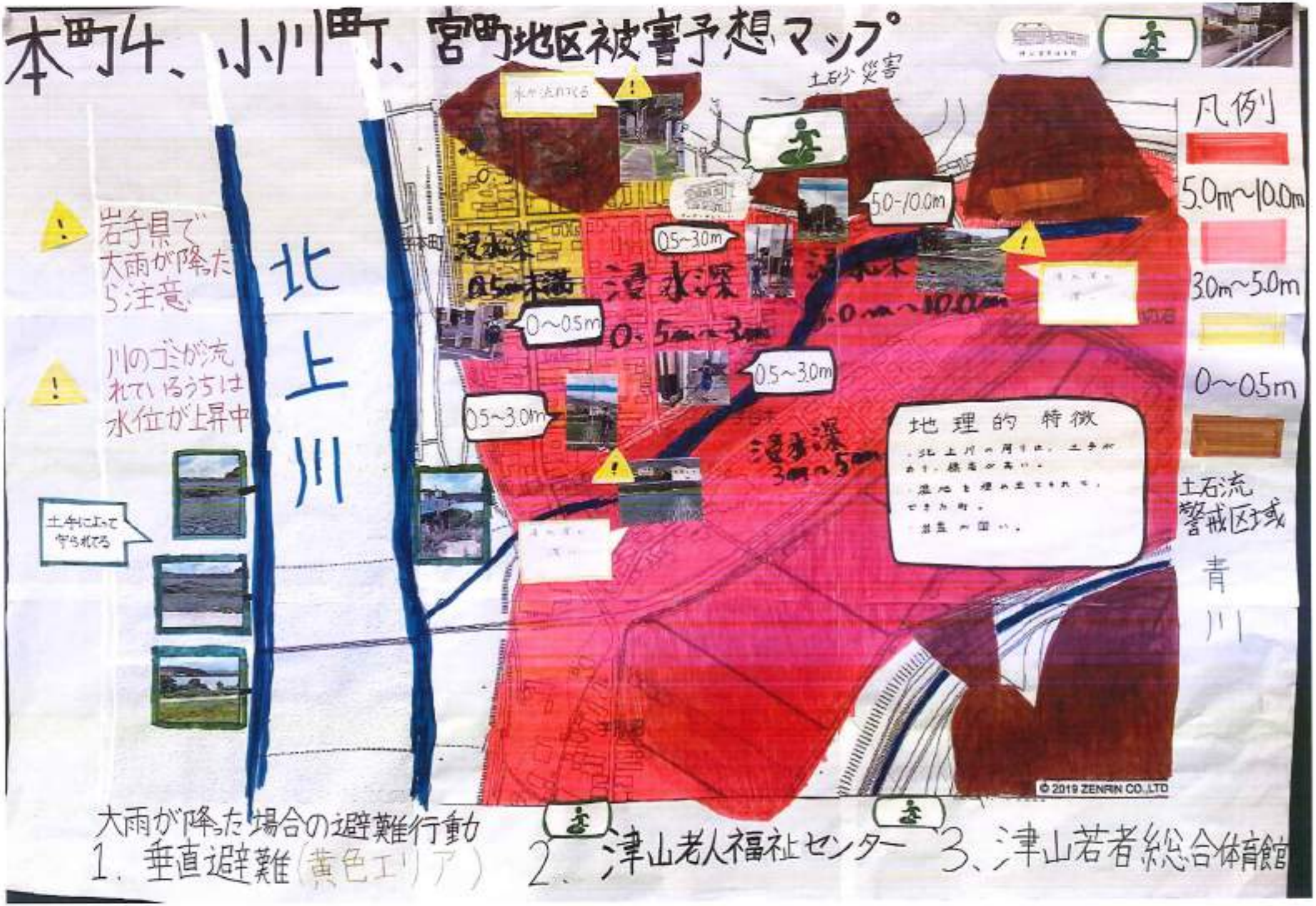
・改めて自分達が住んでいる地域にある危険性や、災害時にどう行動したらいいのかを学ぶことができた。
・避難場所の老人福祉センターは土砂災害の危険性もあるので、災害情報に注意してどこに避難するのか判断する必要がある。
・今回私たちが作った災害マップなどを活用し、自分の家の近くではどんな被害が起こる可能性があるのか知っておくことが大切である。

〈区長さんからのお話〉

・災害時の避難の確認のために、黄色のタオルを各家に配っている。避難した印として家の前にかける → 家の中に入って確認する必要がない。

〈私たちにできること〉　・被災したところの支援　・支援物資を運ぶ
・避難場所の確認　・防災用品の準備　・なるべく早く避難する。
・避難時の黄色いタオルの確認　・高齢世帯への声掛け　・泥の排除。

本町4、小川町、宮町地区被害予想マップ



大雨が降った場合の避難行動

1. 垂直避難（黄色エリア）
2. 津山老人福祉センター
3. 津山若者総合体育館

地区名【 本町4丁目、宮町、小川町 **】**

危険箇所や災害時の避難方法

[地理的特徴]
・北上川、南沢川が流れている。
・北上川の周りには標高が高い土手がある。
・岩盤が固いため、土砂災害は過去にほとんどない。

[大雨が降ったときの危険箇所]
マップの赤色…予想される浸水深5～10m
マップのピンク…予想される浸水深3～5m
マップの黄色…予想される浸水深0～0.5m
マップの茶色…土石流災害が予想される

[具体的な避難方法]
避難所に避難(津山老人福祉センター、津山若者総合体育館、津山林業総合センター)
・自地区に残り垂直避難
・他の地区に避難

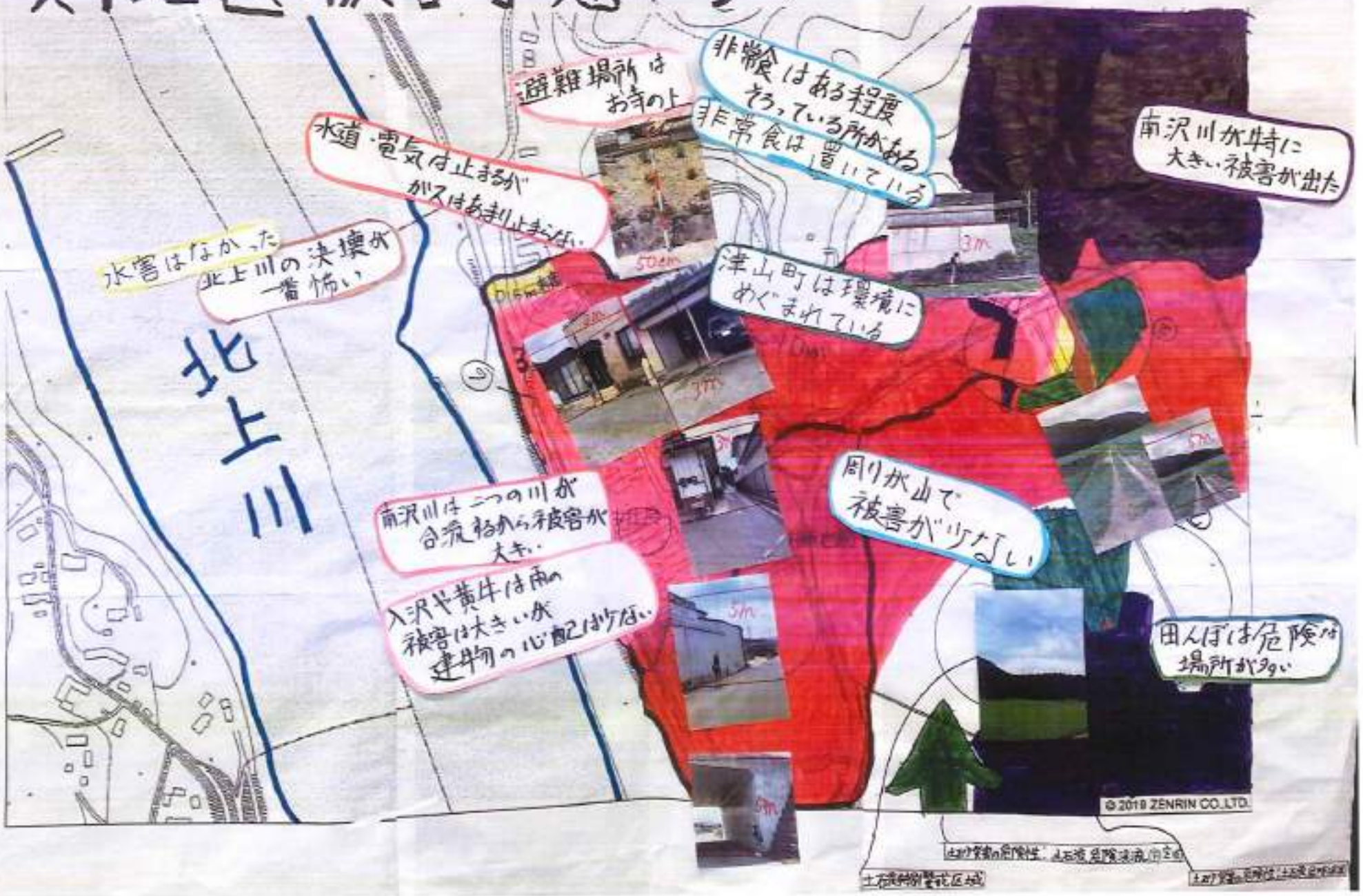
防災学習を通して学んだこと

[地域から学んだこと]
・私たちの住んでる地区は最近、川の氾濫や、土石流災害は起きていない。
・岩手県で大雨が降った場合、北上川の水位が上昇する。

[中学生にできること]
・避難所や、避難経路を確認すること。
・地域の人やお年寄りの方に伝え、子どもやお年寄りの人達と避難すること。
・避難する場所を考えること。
・災害の前触れが起きたら逃げること。
・避難所では、自分から進んで仕事を見つけ、協力して行うこと。

[今回の学習で考えたこと]
・すぐに避難すること。
・避難するときは前もって準備をしておいた方が良いこと。

黄牛地区被害予想マップ



地区名【 黄牛 】

危険箇所や災害時の避難方法

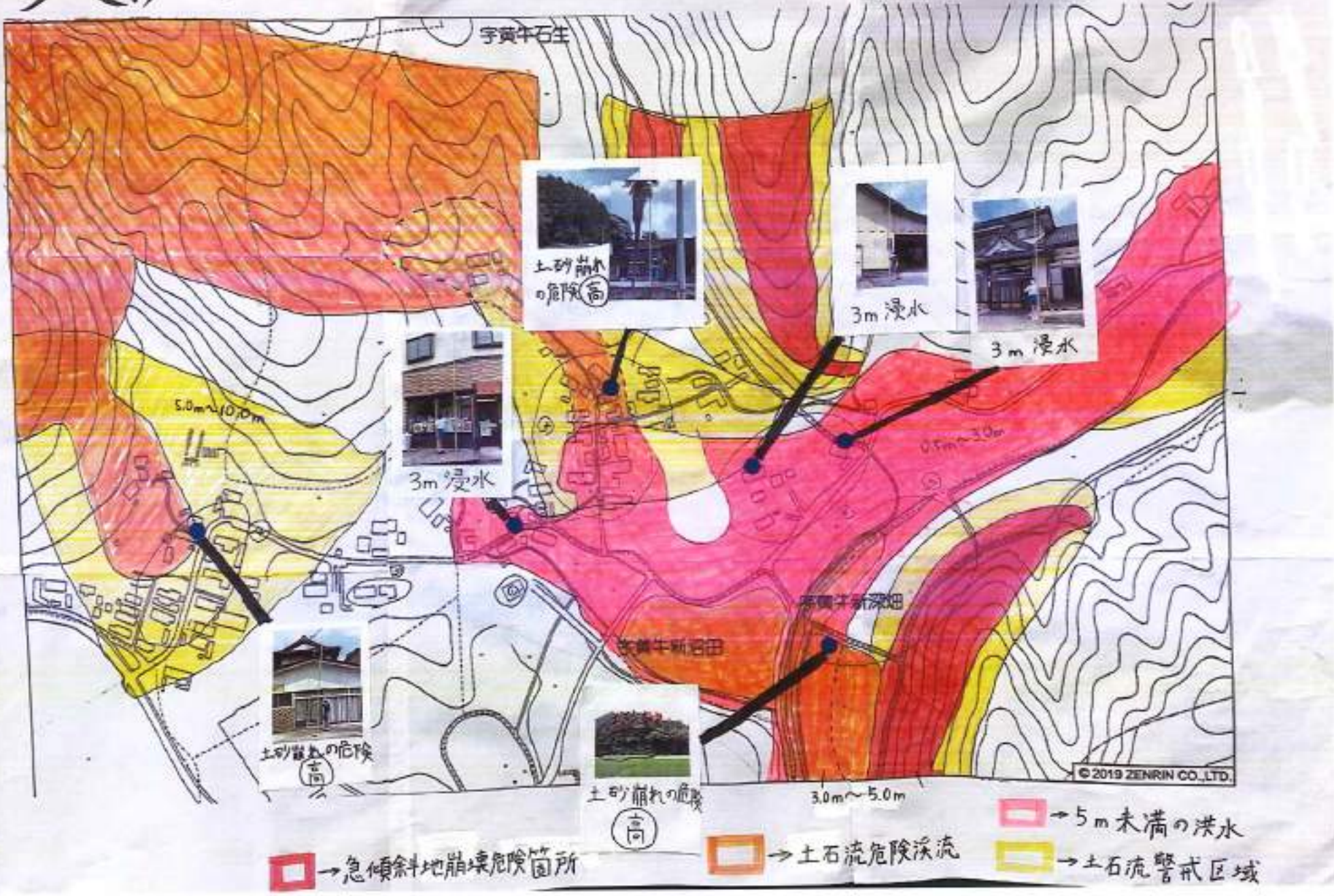
・関野材木店さん周辺　高波　洪水
・関野材木店さんの所を少し進んだトンネル高波、洪水
・お墓のある山周辺（土砂崩れ）
・北上川の近く（洪水）
・周辺は高波や洪水により全壊、流される

避難方法
・黄牛集会所 …徒歩5分
・お寺の上 …徒歩4分
} 道が険しい

防災学習を通して学んだこと

・自分たちの班は川が近いため波が高く規模が大きいので家の二階への避難では助からないということが分かりました。
・普段から見ている自分の地区がどれだけ危険で実際自分がそういった状況になった時どう対応できるかが分かった。
・材業センターや地区の公民館など、災害の規模ができるだけ低い避難場所に避難することが大切だという事がわかりました。
・1000年に一度という異次元の大きさの災害なので早い段階で避難することがいいと思いました。

入沢地区 被害予想マップ



地区名【入沢　】

危険箇所や災害時の避難方法

・洪水や土砂崩れがどこまでくるか知っておく
・災害時は危険だとわかってから避難するのではなく、早めに状況を判断して避難する
・阿部商店　店が雨で飲まれてしまう
・何処まで土砂が来るのか把握しておく
・大雨が降ったら柳風園に逃げる
・入沢集会所は避難場所に登録されていないので柳風園に避難する
・常に警戒して見回りなどを行う
・津山入沢農村公園に車を避難しておく
・避難経路と避難場所を確認しておく

防災学習を通して学んだこと

・いつでも1000年に1度の豪雨が来てもいいように情報共有などを行っておく
・災害が起こったとき、被害状況が悪くならないうちに素早く避難する
・いつ大雨が降ってもいいように避難場所を確認しておく
・災害がいつどこで起こるかわからず、常に準備しておいて、いつでも避難できるようにすることがとても大事

横山1区 被害予想マップ



地区名【　横山1区　】

危険箇所や災害時の避難方法

〈危険箇所〉

・全域に土砂災害

・川沿い氾濫の恐れあり

〈避難方法〉

・被害が起こる前に公民館へ避難!!

・被害が起きている場合
↓
むやみに外へ出ない!!

防災学習を通して学んだこと

① 川と川の合流地点や川幅が狭くなるところで川が氾濫しやすい

② 山から流れてくる水で洪水が起こりやすい

③ 川はカーブが多く，水が流れにくいため，水位が上がりやすい

④ 実際に来た水の高さ

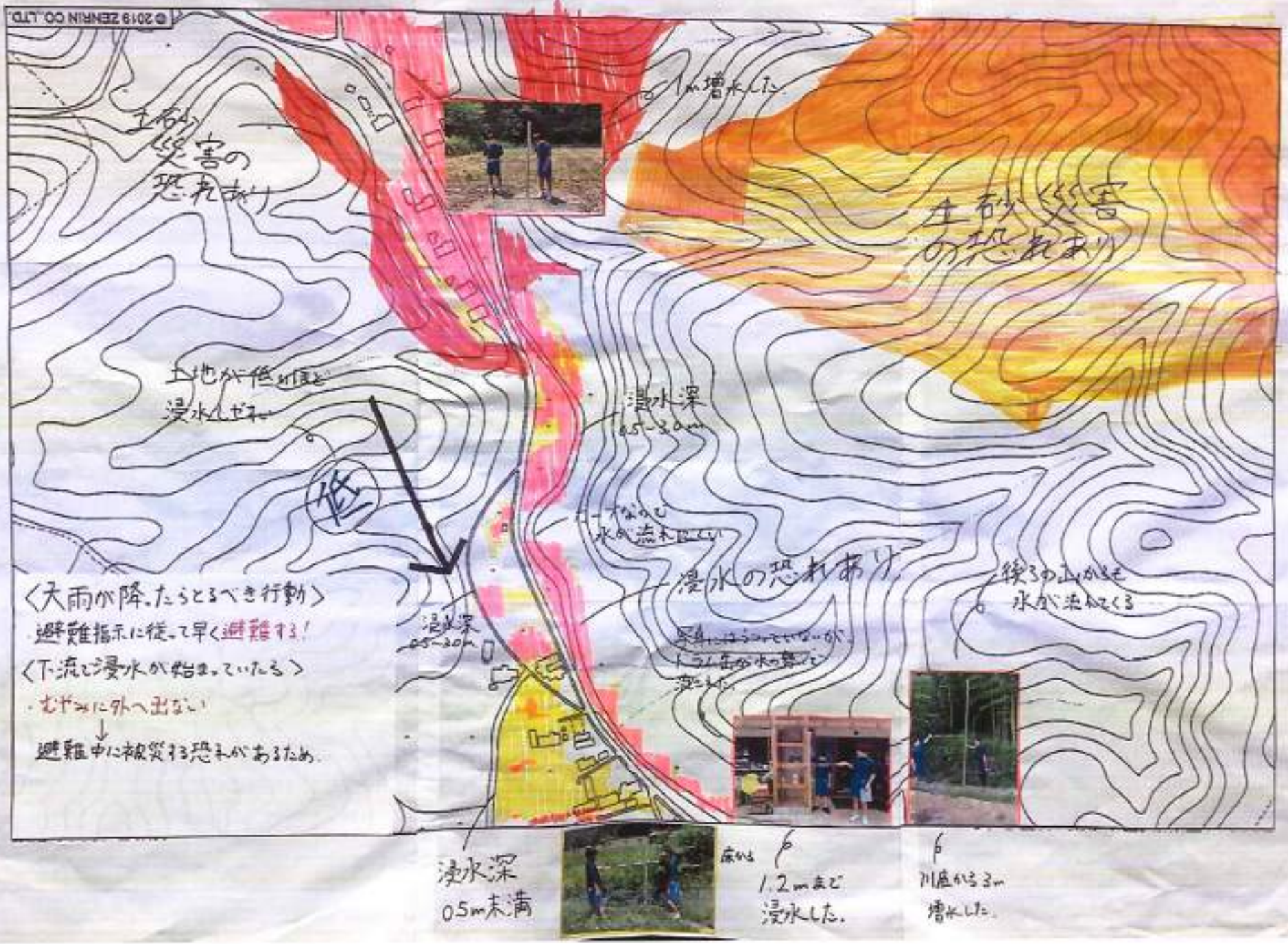
⑤ 被害が起きたときにはむやみに外へ出ない

⑥ もし避難をする場合は被害が起きる前に公民館へ避難!

↓

これからの災害に生かしていこう!!

横山2・3区 被害予想マップ



地区名【 横山 2・3区 **】**

危険箇所や災害時の避難方法

〈危険箇所〉

・南沢川の川沿い … 洪水が起こるため。

・山際の道や土地 … 土砂崩れが起こるため

〈避難方法〉

・大雨が降っている時は，道が水でおおわれて通行できなくなってしまうので，洪水が起る前に避難する。

・避難指示に従って早く避難し，外が危険だったら，むやみに外へ出ないようにする。→被災する恐れがあるため。

防災学習を通して学んだこと

・自分の地域の危険な箇所や避難方法を，見つけたり，考えたりすることはとても大変だと思いました。

・自分が住んでいる地区の危険なところを確認して，もし災害が起こった時どのように避難すればよいのか考えながら取り組むことができました。

横山 4,5

● … 一時避難所
● … 災害時に声かけした方が良いところ



国道45号線は1m以上浸水するため早めに避難する必要がある。
災害が起こった時にすぐ行動できるように、つねに一時避難場所を知っておく必要がある。

地区名【　横山　4・5区　】

危険箇所や災害時の避難方法

〈危険箇所〉

・川の近く → 4区5区の川は、半分が石砂利になっているので川が浅くなっている
・4区全体が低い
・山の近く

〈災害時の避難方法〉

・避難所に行く
・地域で相談して決めた避難場所に行く（柳津へ行けない人）
・消防団の詰所に用意してある物（ボート、発電機、土のうなど）を利用する

防災学習を通して学んだこと

〈地域から学んだこと〉

・横山4、5区は川や池が多いため氾濫しやすい。
・国道45号付近は、1m以上浸水するため、1次避難所に避難する
・柳津にしか避難所がなく、横山に複数ある地域の方々から協力をいただいた一時避難場所がある

〈災害時に中学生ができること〉

・声かけを行う

〈今回の学習で考えたこと〉

・一人一人が協力し合い、声をかけ合っていくことが大切。
・私たちにも出来ることはあるのかを見つけ、それを実行していける。


土石流危険渓流
砂防ダム
砂防ダム
雨量
観測計
浸水深
0.5m～3.0m
到金沢
急傾斜地崩壊危険箇所
© 2019 ZENRIN CO.,LTD.

地区名【　横山 6・7・8 区　】

危険箇所や災害時の避難方法

・横山 6・7・8 区は全体的に土地が低く，木に囲まれているため，危険箇所が多く，安全な場所が少ない
・南沢川が流れている
＜避難方法＞
・洪水の時 → 横山小学校，家の 2 階へ避難！
（できるだけ高い所へ）
・土砂災害の時 → がけから離れた場所，家の 2 階へ避難！
※被害が出る前に避難!!

防災学習を通して学んだこと

・水害の恐しさを知った
・フィールドワークで水害の恐しさを多くの人に広めたい
・土砂災害の恐しさを知った
・避難場所を再確認
・災害で起こったことを記録に残す
・次の被害を予想する
・安全ではないところが多くてびっくりした

凡例

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

土石流危険渓流

0.5~3m 浸水区域



地区名【 横山 9・10・11区 】

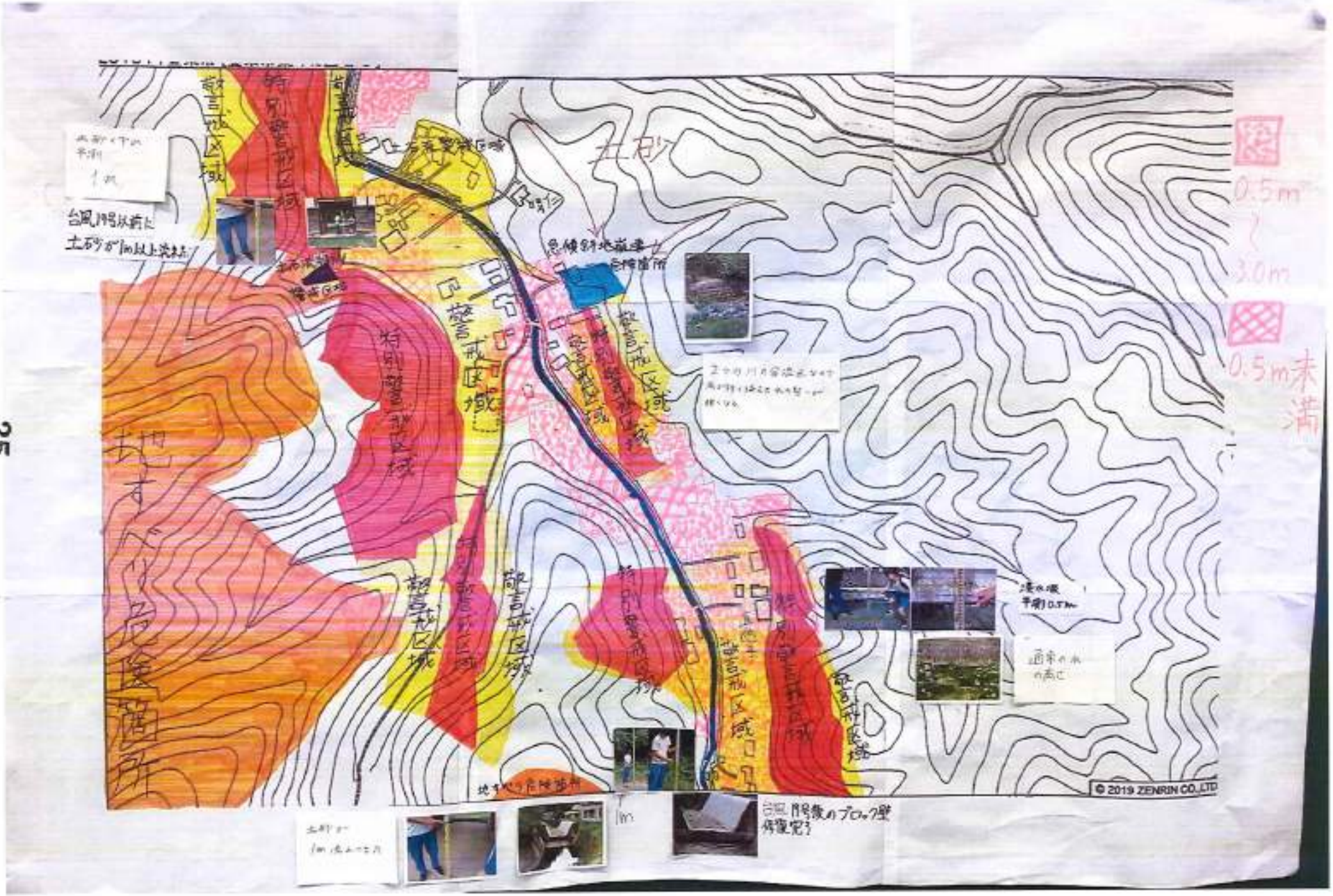
危険箇所や災害時の避難方法

〔地理的特徴〕
・山に囲まれている
・北沢川が流れている
・土砂災害と洪水に気をつける
〔大雨が降ったときの危険箇所〕
マップの赤色…土砂災害特別警戒区域
マップの黄色…土砂災害警戒区域
マップのオレンジ色…土石流危険渓流
マップのピンク色…予想される浸水深が0.5～3m
〔具体的な避難方法〕
・避難所に避難
・自地区に残り、垂直避難
・志津川などの他の地区に避難

防災学習を通して学んだこと

〔地域から学んだこと〕
区長さんは雨がひどくなる前に地域の人たちに電話などで、どこに避難すべきか、いつまでに避難すべきかを連絡した。そうした区長さんの避難時の呼びかけで津山町では死者が出なかった。そこから、避難時の呼びかけの大切さを学んだ。
〔中学生にできること〕
・避難に困っている方がいたときは、助けあう。
・2年間で身についた防災知識を活かして早めに声を掛ける。
・何処が被害にあっているのかを確認し、避難所に着いたら場所を伝える。
〔今回の学習で考えたこと〕
・日頃から避難場所や避難経路を確認しておくことが大切。
・周りのことも考えながら避難をする必要がある。
・防災知識を身に付け、災害が起こったときには、今まで学んだことを活かす。


洪水によって
想定される浸水深
9.0m～5.0m
5.0m～3.0m
0.5m未満
地すべり危険箇所
地すべり危険箇所
地すべり危険箇所
地すべり危険箇所
50 cm
ZENRIN CO.,LTD.


土石流
警戒区域
特別警戒区域
急傾斜地崩壊危険箇所
おすべり危険箇所
© 2019 ZENRIN CO.,LTD

地区名【　　石　　貝　　】

危険箇所や災害時の避難方法

○地理的特徴と地域の危険箇所

- 山に囲まれている
  → 土石流危険区域や地すべり危険区域が多い
- 川沿いに家が多く，川の幅が狭い
  → 大雨のときに川の水が溢れる可能性がある
- 田んぼの土地が低い
  → 大雨のときに水がたまる可能性がある

○具体的な避難方法，タイミング

- 明るいうちに避難する
- 山のほうから変な音がする（土砂災害が起きる可能性）
  → 避難！

防災学習を通して学んだこと

石貝は地形から見て山が多いため，大雨が降ったとき土砂崩れや地滑りが起きる危険性が高いと思いました。また，石貝川はいつもは水が少ないですが，川や用水路の近くに建っている家が多いので，石貝川が氾濫したときに水が流れこみ，家屋が浸水する可能性があると思いました。そのため，大雨が降ったときに水を流すことが石貝地区の今後の課題だと考えました。